

ワゴンからスイーツを選び味わう入院患者たち



桔梗ヶ原病院

初のスイーツバイキング

入院生活甘味でホッ

飲み込みやすさにも配慮したスイーツメニュー



塩尻市宗賀の桔梗ヶ原病院（小松高院長）は14日、入院患者を対象にしたスイーツバイキングを初めて開いた。高齢者など飲み込みが難しい人も一緒に楽しめるようにと配慮したメニューを考案し、40人余りが甘味に舌鼓を打ちながら和やかなひとときを楽しんだ。

栄養部の管理栄養士たちが試作を繰り返してメニューを考案、抹茶パバロアや桜の杏仁豆腐、チョコレートフォンデュなど7品を用意した。

季節感を取り入れながら、飲み込みやすいようにやわらかさや舌触りにも工夫を凝らした。とろみをつけてから凍らせた氷を削ったイチゴ風味のかき氷もあり、お年寄りに好評だった。

2カ所に分かれて開き、病棟の多目的ホールでは、参加者は座席の間を巡回するワゴンから好きなスイーツを3品ほど選んで味わい、笑顔を見せていた。小川郁乃さん（63）は「入院すると複雑な気持ちで落ち込むし、甘いものを食べる機会も少ない。周りの皆さんも笑顔で、ほっとして和んだ気持ちになれた」とほほ笑んでいた。（深澤摩之）